



株式会社日本バイオリサーチセンター

Nihon Bioresearch Inc.

〒501-6251 岐阜県羽島市福寿町間島6丁目104番地

TEL 058(392)2431 FAX 058(392)1284

URL: http://www.nbr.co.jp/

PLNA、LLNA について

抗原性試験の代替法であるPLNAおよび皮膚感作性試験の代替法であるLLNAについて紹介します。

PLNAおよびLLNAの長所として、いずれも1週間以内で結果が得られることから、スクリーニング試験としてよく採用されています。

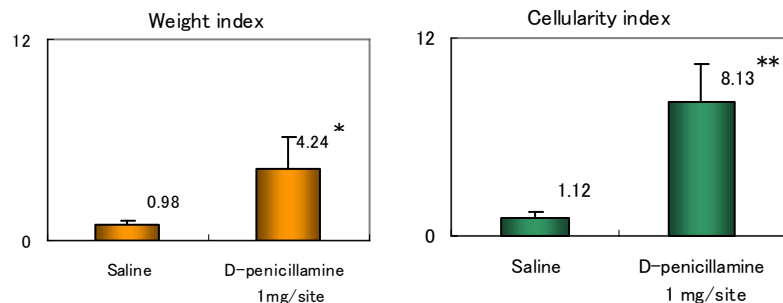
PLNA

BALB/c系雄性マウスの足蹠に被験物質を皮下投与する。他方の足には媒体を投与する。

1週間後に、膝下リンパ節を摘出し、そのリンパ節重量およびリンパ節中の細胞数を測定する。

フローサイトメーターでT細胞とB細胞の比率を測定する。

リンパ節重量の増加、リンパ節中の細胞数の増加、B細胞の比率の上昇がみられた場合を陽性と判断する。

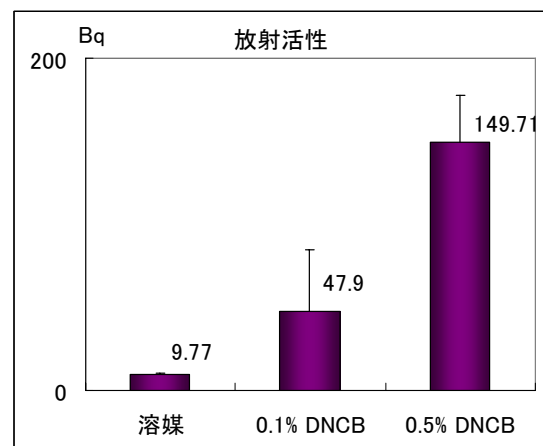


LLNA

CBA/J系雌性マウスの耳介背部に被験物質を塗布する。この操作を3日間繰り返す。

初回投与後4日に³H-methyl thymidine溶液を静脈内投与し、5時間後に耳介リンパ節を摘出する。翌日シンチレーションカウンターで放射活性を測定する。

放射活性が、溶媒群に比して3倍以上のものを陽性と判断する。



お知らせ:

次号予告: 腎障害モデル...について

佐部利 典彦のアートギャラリー(23)

岐阜県出身(1969~)

作品解説

タイトル: 「立てる像」

サイズ: 29cm×25, 5cm

技法: アクリル絵具 クレパス

この絵は、まだ娘が立ったりする前になぜか想像して描いていました。こんな光景が待ち遠しかったのかもしれない。



『心の絆 - その23 -』

「順番によくなる」。私の好きな言葉です。仕事、会議、組織、会社...そして人も同じです。すべて事柄、順番によくなればそれで十分かと思います。人は不完全です。人の行うことは完璧にできないことが大半です。知識不足、経験不足、努力不足などから予定外の結果を繰り返すのが人の常です。しかし、こうした人の不完全さに安易に妥協するだけでなく、出た成果をその時点で謙虚に見直し、さらにそこから「順番によきましょう」という気持ちをもって一つひとつの物事に臨むことが肝心かと思います。そしてこの姿勢が結果的に具体的な中味を伴う成果に繋がっていることが多いと思います。成果を急ぎ、スピードを重視する現代社会ですが、重視し過ぎるが故に中味を伴わない施策や方法に走り、得られた成果はうわべや形だけで長続きしないものが多いように思います。木の成長は竹と比べるとずっとゆっくりですが木には年輪を重ねた強さがあります。少々、の難関に屈することはありません。昨今よく問われる持続的な成長とは中味の充実があってこそ出来ることです。